

日本人女性の化粧行動と意識の変化

日本では女性が化粧をすることが一般的となっており、社会の中で身だしなみとして求められる場面もある。そこで、なぜ日本では女性が化粧をし、義務的になっている場面があるのかを明らかにするために研究を行った。

本研究では、日本における化粧文化の変遷をたどり、女性の化粧は身だしなみ・マナーであるという意識がいつ生まれ、どのように変化してきたかを考察した。また、大学生を対象に化粧行動や意識に関するアンケートを行い、相手に対する化粧期待や普段の化粧行動を明らかにすることで、意識の違いやその特徴を分析した。

女性の化粧は身分の高い人々を中心に行われ、江戸時代頃から教養書や礼法などに女性が習得すべき作法として組み込まれていった。また、女学生の教育にも組み込まれたことで、化粧は身だしなみという意識は身分や地域を問わず広まっていったことがわかった。アンケート調査では、化粧は自由にするものという意見も多く、意識の変化が見られた。同時に、化粧は身だしなみという意識もまだ一般的であることが明らかになった。今後も化粧に対する意識はさらに変化していくと考えられる。